

## 「サクラ綻ぶ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「綻ぶ」と書いて「ほころぶ」と読む。糸へんの文字で想像できるように、本来は、衣服の糸がほつれたり、小さな穴が開いた状態を言う。いわゆる「ほころび」である。咲き始めた状態の花も「ほころぶ」と表現する。特にサクラの花によく使われる表現だ。

茗荷谷駅から大学に向かう途中の、その名も「桜蔭会館」の前に、桜の樹が何本かある。枝の一部が歩道橋の踊り場にかかっている、子どもたちの目線からもよく見える。昨日の修了式の日、3年生の子どもが、「先生、歩道橋のサクラ、もう咲き始めているよ。」と教えてくれた。私は、どんな様子だろうと、今朝写真を撮りに寄ってみた。



1枚目の写真のつぼみは、まだ硬そうだ。開花に数日かかりそうだ。ちょっと「綻んでいる」とは言いにくい。2枚目の写真はどうかだろう。うん、これはまさに「綻んでいる」ではないか!しかし「咲いて」はいない。子どもたちが「咲き始めている」と表現したのは、どの花のことだろう?



あつた!確かに「綻ぶ」を通り過ぎて、花卉を開いている。数えると、歩道橋から見える範囲で10輪ぐらい・・・子どもの「自然に対する気づき」はすばらしいと思った。



今日も晴れていて、気温も上がりそうだ。この絵のようになるのもあと数日だろう。満開の状態が、入学式まで持たないのがちょっと残念であるが・・・